テンミニッツTV

10MTV

鼎談

島田塾
第 200 回記念

これからの日本をどうするか

2022 年 5 月

島田 晴雄

慶應義塾大学名誉教授
テンミニッツTV 副座長

しまだ・はるお▽慶應義塾大学大学院修了後、アメリカ合衆国ウィスコンシン大学で博士号取得。以後、MIT（マサチューセッツ工科大学）、フランス ESSEC（経済経営グランゼコール）の客員教授を歴任。OECD（経済協力開発機構）や ILO（国際労働機関）のアドヴァイザーをつとめるなど、わが国有数の知米派そして国際派エコノミスト。

小宮山 宏

東京大学第 28 代総長
三菱総合研究所理事長
テンミニッツTV 座長

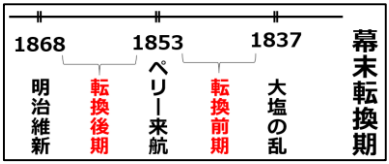
こみやま・ひろし▽1944 年栃木県生まれ。1967 年東京大学工学部化学工学科卒業。1972 年同大学大学院工学系研究科博士課程修了。1988 年東京大学工学部教授、2000 年工学部長、大学院工学系研究科長、2003 年副学長などを経て、2005 年 4 月第 28 代総長に就任。2009 年 3 月に総長退任後、同年 4 月に三菱総合研究所理事長、東京大学総長顧問に就任。

神藏 孝之

イマジニア株式会社
取締役会長 ファウンダー
松下政経塾塾長代理

かみくら・たかゆき▽1956年東京生まれ。1980年早稲田大学商学部卒業。1984年松下政経塾卒塾（2期生）。松下幸之助塾長より直接指導を受ける。1986年イマジニア株式会社設立、代表取締役社長就任。1996年株式店頭公開。2006年代表取締役会長兼CEO就任。2009年東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラム修了。2019年6月取締役会長ファウンダーに就任。

【はじめに――神藏孝之】



幕末の転換期は、「ペリー来航」の 1853 年を起点に、転換前期と転換後期に分かれると、東洋思想研究家の田口佳史先生が指摘しておられます。転換前期は 1837 年の「大塩平八郎の乱」から始まります。転換前期の特徴は、「目に見えない」「転換期だと気づかれにくい」ということです。幕末にも、「ペリー来航」という分かりやすい出来事が起きてはじめて、「転換期だ」「変革が必要だ」と多くの人々に認識されるようになりました。

佐久間象山

現在の日本も、転換前期が終わり、転換後期に入っているように思われます。今、ようやく転換期だと認識されるようになってきているのではないでしょうか。

横井小楠

転換期においては「構想係」が重要になります。田口先生が幕末転換期における構想係として名前を挙げるのは、佐久間象山と横井小楠です。佐久間象山は、「東洋道徳･西洋芸術」という有名な言葉を残していて、彼の門下の中から勝海舟、坂本龍馬、陸奥宗光などの一流の人材が輩出されました。松平春嶽のブレーンだった横井小楠は、「国是三論」などで、新たな社会や国家のあり方を示し、その構想は、五箇条の御誓文※へと繋がりました。

島田先生と小宮山先生は、この二人の構想係と、非常に共通点が多いと感じています。今回の鼎談の中から、両先生が考える構想を垣間見ることができるはずです。

※**五箇条の御誓文**：明治元年（1868）に布告。「広く会議を興し、万機公論に決すべし」など、日本の近代化の方針を明確に打ち出している。横井小楠の門下生であった福井藩出身の由利公正が起案。横井小楠の「国是三論」などの思想が反映されている。

Confidential

これからの日本をどうすべきか

（1） 凋落する日本と岸田政権の課題

●2025 年は最低の年になるのか―40 年サイクル説と日本の歴史

神藏　今日は最初に、最も問題意識を持たれている「日本はこれからどうしていかなければならないのか」について、そしてこの 30 年の日本の凋落度合を含めて「新しい資本主義」等々について、まずは島田先生、お願いします。

島田　はい。（その前に）小宮山先生と私はかなり長い付き合いで、東京大学の総長になられる前からいろいろな交流がありました。皆さんの中には小宮山先生のことをそれほど知らない方もいらっしゃると思いますので、簡単にご紹介申し上げます。

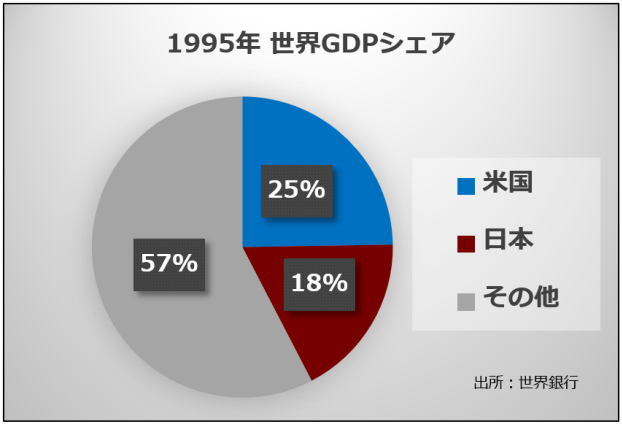
小宮山先生は異色の東大総長でした。とても明るいですね。小宮山先生が総長を務めていた時代に、東大は非常に変わりました。いろいろな変化を起こされたけれど、（中でも）「知の構造化※」を唱えられたのです。（現在、）学問は次々と専門化し、隣の人が何を行っているのか分からないといった事態になっているのですが、それを全て総合し、構造化する中から“ビッグピクチャー”を導き出す。そのような方法論を、東大の総長時代に出されました。こういったことを言う人は総長ではあまりおらず、大変革命的なことでした。

※**知の構造化**：適切な知識を適切に使えば、私たちの課題のほとんどは解決できる。だが、他方、逆に適切な知識を適切に動員することは極めて難しい。
　現在、知識が爆発的に増えた結果、逆に、知の全体像がつかみにくくなり、うまく使いこなせなくなっている。この状況のなかで、知識と知識を構造的に関連づけて全体像を描き、正しい知識を適切な目的のために動員するのが「知の構造化」である。

Confidential

それ以前にも、「日本はいろいろな問題を抱えて大変だ」という議論はありましたが、それを「（日本は）“課題先進国”なのだろう。課題があるのだからチャレンジするのだ」と言われて一世を風靡しました。そして東大で「知の構造化」を行って、「プラチナ構想ネットワーク」を作られました。それは、「日本にはいろいろな可能性がある。そして課題に取り組むために行うのだ」と自主的に作った法人ですが、構想をどんどん推し進め、若い人を教育して、全国各地の自治体や企業をも巻き込んで教育活動を行ったので、おおかたそれは整いました。「皆、私の言っていることは理解しました。ではそれを実践しましょう」ということで、実装部隊を作り出したのです。（小宮山先生は）そういった人で、私は小宮山先生とはいろいろなところで交流があって、今日まで来ています。

さて、モデレーターの要望についてお答えすると、一言でいえば、岸田文雄さんがこの時期に内閣総理大臣になられたことはとても重要だと思います。なぜか。実は 1980 年代の中頃に日本は一度、1 人当たり GDP でアメリカを抜いているのです。ご存じの方も多いでしょう。その頃は日本とアメリカを合わせると、世界の GDP の 4 割ほどにものぼりました。だから「G2」などと言っていたのです。「日本と



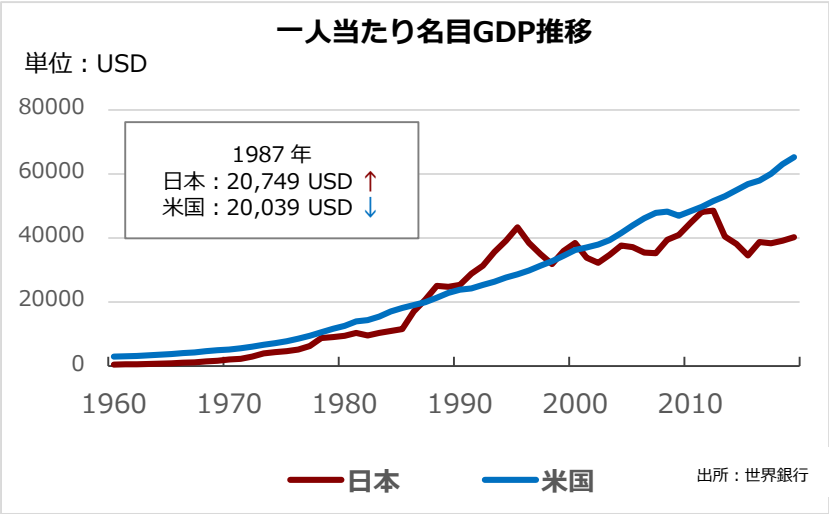
Confidential

アメリカで何でもできてしまうのだ」という時期があって、日本は得意の絶頂でした。

それからは、うまくいっていません。次々と階段を転げ落ちるように落ちていき、つい最近、PPP（購買力平価）で韓国に抜かれ、しばらくするとドルベースの 1 人当たり GDP でも韓国に抜かれるでしょう。それくらいどんどん落ちているのです。

「40 年サイクル説」を唱える人がいて、私は割と当たっていると思います。どういうものかというと、日本は 40 年サイクルで、ものすごく良くなったり、階段を転げ落ちるように悪くなったりするというのです。

一番のポイントは、1945 年です。日本列島が焼け野原になり、310 万人ほどが命を落としました。あの年がボトム（底）だったと思います。あれから 40 年ほどたち、1980 年代の中頃にどうなったかというと、1 人当たり GDP で日本がアメリカを抜いたことがあったのです。敗戦国でボロボロだったのに、40 年たったら世界の頂点に



Confidential

立ったという感じだったのです。

　では、敗戦の 40 年前はどうだったか。1945 年の 40 年前は 1905 年です。これは何か分かりますか。日露戦争に勝っているのです。

　さらにその 40 年前は何だと思いますか。1865 年です。長州の乱暴者が京都で殺人を繰り返していて、孝明天皇は外国人が大嫌いで、日本はどうなるという混乱期です。幕末の最低の時期でした。

　それから（また戻って）40 年後に日本は列強に伍して、とうとうロシアを破ったのです。そして調子に乗って太平洋戦争を行って、敗戦となった。それから頑張って、高度成長でアメリカを上回った。そして 40 年後は 2025 年です。「40 年サイクル説」でいくと、2025 年は最低なのです。あと 3 年です。

●岸田発言の「分配」への疑問符と日本経済の課題

島田　そうした低迷期になったときに内閣総理大臣になるのだったら、私は「次の 40 年は私が設計する」と言ってもらいたい。「最悪の状態を、今後はこうやって回復させる」と。これまで何度も繰り返してきているわけですから。そのちょうどいいタイミングで菅義偉さんが頑張っていたのだけど、座を追われてしまって岸田さんが総理になった。普通なら、彼が「40 年の復興をするのだ」ということを言ってくれると期待するではありませんか。

　そこで彼が何を言い出したかといったら、「分配を重視する」ということです。「日本は分配が不平等だ」と。「ちょっと待ってください」と言いたい。日本は分配が全く不平等ではないのです。でも彼は、「新しい資本主義」では分配を強調するのだと言う。それで先日、バイデン米大統領とテレビ会議をして、得意になってそれを仰ったらしい。するとバイデンさんはそれを聞いて、「それは私の選挙公約だよ」

Confidential

と言った。これはジョークではありません。アメリカは非常に格差の大きい社会ですから、「まさに君の言っていることを私の選挙公約で言いたかったのだ」と言うのです。私は、岸田さんがジョンソン英首相やバイデン米大統領にそういうことをおっしゃるなら、まことにその通りだと思います。ですが、日本国内で言うことではないでしょう。やはり総理大臣たる者は、国家の一番重要なことをやりきるために命を懸けてもらいたい。

そして、分配とは具体的に何を行うかと思ったら、「18 歳以下の子どもに 10 万円を配る」ということで、しかも「年末までに配らなければいけない」と公明党に言われたそうですが、それが分配なのかと思います。財政赤字は増えているわけで、今配る必要はまったくありません。そのようなことを 5 つも 6 つも行っているのです。

また、「賃上げしなければいけない」と言っているが、賃金決定は経営者の専権事項であって、役所に言われて行うことではありません。その賃金を上げるために何をするのかというと、賃上げした会社については中小企業で最大で 4 割（※法人税額から差し引くことができる控除率）、大企業で 3 割（※同）まで課税負担を減らすと言います。ならば、減らした分だけは企業も賃上げをするでしょう。要するに補助金なのですから。それが分配でしょうか。何を言っているのか全然分かりません。

だから私はかなり岸田さんに批判的な文章を書いているのです。国家の一番重要な問題に着目せずに、的外れな「分配」などということを日本で言い、時間を浪費している。だから 2025 年になったときは、本当に日本は最低になってしまいます。そうならないために、今は逆転の発想でやってくれなければいけません。

だけど、岸田さんは良い人なのです。とても礼儀正しいし、小さいノートを持ち歩いて、毎週のように看護師さんや小学校の先生たちと面談して、聞いたことをノートに取っているのです。「聞く力」など

Confidential

ということで一生懸命、それを 30 年も行っている。とても良い人です。マナーもいいし、見た目もいい。

最近、いろいろなところで発言を聞くのですが、言うべきことは言っているのです。「力をもって領土を変えてはいけない」、それはその通りですね。「日本はどんどん成長すべきである」、それもそうです。成長が軽んじられているのではないかと言われたら、「どんどん成長すべき」などと言う。

つい最近、彼はロンドンのシティで、大変ハイトーンの演説を行いました。私は彼の演説を直接でも 1、2 度聞きましたし、ずっとフォローしています。徐々に彼の「新しい資本主義」は整理されてきています。ロンドンの演説ではこう言いました。「インベスト・イン・キシダ（岸田に投資を）！」「日本はどんどん成長するから」と。どこにそのような証拠があるのでしょうか。

つまり、あの人は良い人なのです。言われたことは全て言う。力任せにやるとなったらプーチン氏のようになってしまうので、お神輿に乗ってフワッと行くのですが、それは批判されなくていいのでしょうか。だけど、日本経済は確実にダメになっていきます。

このように、私はずっと批判的なことを言っています。だけど岸田さんに会うと、すごく良い人なので、フワッとしてしまうのです。ですが、そういった批判を持っています。

テンミニッツ TV のおススメの関連講義

知識の構造化のために
（1）テンミニッツ TV の問題意識　　**小宮山宏**

明治維新とは～幕末を見る新たな史観
（2）日本の盛衰 40 年周期　　**島田晴雄**

Confidential

人気 急上昇中

**本冊子の続きは、
現在、テンミニッツ TV にて
配信中です**

テンミニッツ TV とは

「よりよく生きるための『知の力』を養い高める」「第一人者がニュースの核心を語る。さまざまな事象の本質に迫る」を方針としてサービスを展開している、1話 10 分で学ぶ教養動画メディアです。現在、小宮山宏座長、島田晴雄副座長、曽根泰教副座長はじめ 200 人以上の講師による、4300 本以上の講義を配信しています。

【サービスに関するお問い合わせ】

●イマジニア株式会社 ユーザーサポート担当
メールアドレス support@10mtv.jp
受付時間： 10:00～11:45 12:45～17:00（祝祭日を除く月曜～金曜）

Confidential

IMAGINEER